

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果では、平均正答率が75%で、全国平均を5.2%上回っている。学習指導の内容別、評価の観点、問題形式別でもすべて全国平均を上回っている。しかし、古典に関する設問の正答率が、唯一、全国平均より5%低い。 ・東京都の学力向上のための意識調査の結果では、「国語が得意」と感じている生徒が3学年では、都平均14.4%に対し25.3%と高く、自信をもって課題に取り組んでいるといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝統的な言語文化」の“古典に表れたもの”の見方や考え方を“知る”ために、少人数のグループでの話し合いを定着化させるとともに、グループ内だけでなく、全体に向けてのスピーチ等を取り入れた授業を行う。また、“長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使う”ために、暗唱、短文作り等、基本を重視した授業も行う。また、課題には最後まであきらめずに取り組ませる姿勢を大切にしている指導を継続する。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の学力向上のための意識調査の結果では、「社会の授業の内容がよくわかる」と感じている生徒が3学年全体では、都平均38.5%に対し41.4%となっている。また、肯定的回答をした割合は85.6%となっており、多くの生徒が授業内容を理解しているという結果が見られた。 ・定期考査やレポートから思考・判断・表現の力が十分に身に付いていないといった現状がある。習得した知識を活用する力が十分に身に付いていないことが読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学習の機会を増やす。大型のホワイトボードやICT機器を活用して、協働学習の環境を整える。生徒同士の協働学習が習得した知識を活用する機会となるよう授業を構成する。 ・社会科の授業で身に付けさせたい力を明確にし、改めて生徒と共有、確認をする。また、評価に関しては、ルーブリック評価を生徒と作成し、生徒個々が目指すゴールを明確にする。そうすることで、生徒が頑張りの成果を可視化しやすくし、できるようになったかどうかを客観的に認識できるようにする。 	○
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の学力向上のための意識調査の結果では、「数学の授業の内容がよく分かる」という質問に対して8割以上の生徒が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と解答していることや授業の様子から基礎的な部分の定着はできているように感じている。 一方で「自分の考えを他の人に積極的に伝えるようにする」という質問は6割と低く、考えを論理的に説明するのが苦手な生徒がいることがわかった。 ・全国学力・学習状況調査の結果では、D「データの活用」が東京都、全国の数値のどちらと比べても下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAシートを活用し各節の内容と目標を常に生徒が確認できるようにする。 ・単元最初の授業でのガイダンスの充実を図る。また、各授業での目標を明確にし、目的意識をもって授業に取り組ませる指導を継続して行う。 ・定着できている基礎的な知識・技能を深い学びにつなげるために、意図的・計画的なアクティブラーニングを実践し、自分の考えを他者に伝える経験を増やす。 ・生徒に配布されているタブレットや、電子黒板を活用して、図形やグラフについての指導を視覚的にも興味や関心を抱き、理解につなげられるよう工夫をする。 	○

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能の定着が不十分なために、論理的な説明ができなかったり苦手としていたりする生徒がいる。 ・実験などの実習には積極的な反面、結果が理論と繋がらず、理解が不十分な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「e-ライブラリ」などの学習コンテンツや問題集なども利用しながら、ドリル的な要素を取り入れ、知識や技能の定着を図る。 ・論理的な説明や思考を促す意図的な発問を工夫するとともに、実験結果と理論との関係を他者に伝える活動の場面を意図的に増やしていく。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞などでは落ち着いて授業に取り組んで、学習内容を理解しようと努力している。 ・発問に対し積極的に答えるなど、音楽の授業に意欲的な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が主体的に考え、学習を深められるようなワークシートの工夫をする。 ・表現の工夫や感受の過程など、生徒が考える過程において、個人、4人組、全体で共有し、まとめられるようにする。 ・表現活動（歌唱・器楽）が苦手な生徒への個人指導を行う。 ・歌唱においては、一人一人が自信をもって声を出せるように、精神面、技術面両方の指導の工夫を図る。 	○
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作において、自分なりに主題を生み出して発想を広げ、構想を練ることに自信をもてない生徒がいる。 ・長期間の取り組みで完成させる作品制作では、制作意欲を維持し続けられない生徒がいる。 ・鑑賞では、作品について感じたことや思ったことをうまく言葉で表現できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫し、自身の体験の中から主題を見付けることができるようにする。また、グループで相互に作品構想をプレゼンテーションをしたり意見を出し合ったりしながら、構想を更に練るなどの工夫をする。 ・作品制作の中で個別にアドバイスや短期目標を与え、創作意欲を高める。 ・鑑賞の時間では、グループでの話し合い活動を多く取り入れ、自分の思いや考えを言葉に表す力を伸ばしていく。 	○
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する目的意識が高くなく、見通しをもてないまま授業を受けている。 ・毎授業の振り返りの習慣化が不十分である。 ・話し合いや思考ツールの活用状況が低く、定着に至っていない。 ・論理的な思考力を高める指導に達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や授業の導入において、分かりやすい説明をすることや、学習カードの改善を図る。 ・授業の振り返りを書かせたり、タブレットに打ち込ませたりする取組により、PDCAサイクルを回せるよう働きかけていく。 ・学習における問いに対して、思考ツールを活用した課題解決を実践し、複数で解決方法を練る実践を行っていく。 	◎
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・技術家庭は基礎的な知識や技術を習得するだけでなく、自ら考えたり、新たな課題等を見付けたりする力が求められる。そのような思考や課題発見等について、積極的にできない生徒がいる。 ・製作においては完成させるために見通しをたてることが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの工夫やワークノートを活用して課題を見付ける。グループで意見を交換し、自分の考えをまとめることで、問題解決能力を身に付ける取組を意図的・計画的に行っていく。 ・製作前に1時間毎の目標をたてさせたり、振り返る時間を設けたりすることで見通しをもたせる。 	○

<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果によれば、平均正答率が49%であり、全国平均を3.4%上回る結果となった。また、学習指導要領の領域の「聞くこと」「読むこと」の平均正答率も全国平均正答率を上回っているが、「書くこと」の平均正答率が東京都の平均正答率より4.4%下回っている。習得した知識・技能を活かして、英文を書くことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAシートを活用し、その授業のゴール（目標）を意識して取り組めるような授業デザインをする。 ・単元の最後に行うパフォーマンステストの内容を見直し、生徒にとって身近なテーマで書くことができるものにする。 ・帯活動で短文英作文などを計画的に実施し、適時フィードバックを行うことで、正しい英文を書く経験を積ませ課題の改善を図る。 ・穴埋め、並べ替えなど、段階を追って作文させるワークシートの作成、活用をする。 	<p>○</p>
------------	--	---	----------